

## 第三章

# 秋葉区の現状と課題と まちづくりの方針



AKIHA  
S U M U  
P R O J E C T

アキハス  
プロジェクト



## 目指す区の姿

## I 環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち



## (1) 愛着と誇りを持てる里山文化の創造

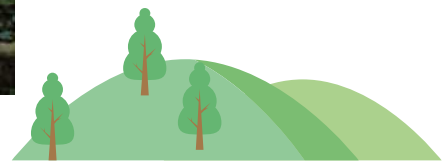
## 現状と課題

- 市民・企業・ボランティア・里山活動団体などとの協働により森林整備を行うとともに、担い手育成に努め、里山環境の保全を推進してきました。今後は、里山活動団体相互の連携強化と活動のさらなる活性化や森林整備を進めるとともに、森林所有者の参画も求められます。
- にいつ丘陵の公有地化を進め、市有林にかかるスギ人工林の間伐を実施することで、森林整備を行ってきましたが、秋葉区の森林面積の90%を占める個人所有林を含めた一体的な整備により、里山の再生を行う必要があります。



菩提寺山遊歩道

- 「にいつ丘陵周辺マップ」の設置、国の史跡に指定された「新津油田金津鉱場跡」の遺構の保全・整備、「里山ビジターセンター」の整備や情報発信などを進めてきました。今後は、里山活動団体との連携、にいつ丘陵に隣接する歴史・文化施設などと連携し、より一層の魅力発信に努める必要があります。



## まちづくりの方針

- ◆区民との協働により、里山の環境保全や美しい「里山」の景観の保全・再生を図ります。
- ◆秋葉公園再整備基本構想に基づき、秋葉公園のリニューアルを行い、公園の活性化や公園利用者の利便性の向上を図ります。
- ◆里山活動団体や関連施設等との連携を進め、にいつ丘陵の情報発信体制づくりを推進します。また、里山ビジターセンターを拠点として、里山の魅力を案内するガイドによる情報発信を行うとともに、次世代を担う人材育成を図ります。
- ◆団体・施設等との連携により、にいつ丘陵の特色を活かした活動・イベントにより、魅力的な体験プログラムの展開を図って行きます。
- ◆里山を持続的に利活用していくために、保全活動の担い手不足や高齢化対策も含め、必要な協働体制の支援を図ります。
- ◆健康や運動が重視・推進される中、里山の環境を活かしつつ、個々の体力や志向に応じた多様な里山ならではの癒しの効果の活用を図ります。
- ◆にいつ丘陵では、多種多様な関連施設が存在するとともに、里山活動団体等が多様な取り組みを続けていて、これら関連施設同士の回遊性を高めることで里山のにぎわいを増やします。
- ◆「体験型の学びの場」や「子育ての場」、「健康づくりの場」や「観光交流の場」として里山の活用を進めます。



秋葉小夏



## 目指す区の姿

### I 環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち

#### (2) 人と自然が調和した美しい景観の保全

##### 現状と課題

- 阿賀野川水辺プラザを安らぎの場や交流の場としての利用促進を図るため、阿賀野川フェスティバルを開催し、広く周知を図りました。また、信濃バレー親水レクリエーション広場、雁巻緑地・信濃川親水緑地公園と合わせて、環境整備を継続し、良好な水辺空間を維持していく必要があります。
- 新津川、能代川及び小阿賀野川の遊歩道の環境整備を継続し、地域の身近な自然環境を維持していく事が求められています。



新津川除草クリーン作戦

- 地域との協働による新津川除草クリーン作戦を実施し、環境の保全・美化を図りました。これにより、まちなかでの豊かな地域資源の存在が区内外から認識され、新津川を核とした交流が活発になりました。
- 区民との協働により、清掃活動や不法投棄防止活動、ごみのぽい捨て禁止等啓発活動、ごみの正しい分別と減量化などに取り組んできました。今後も引き続き環境に配慮した「リデュース」「リユース」「リサイクル」の「3R(スリーアール)活動」が求められています。



阿賀野川

- 原油の分離回収を行うとともに、突発的な原油噴出事案には油吸着材などで対応し、水路への原油流出防止と公共水域の水環境保全に努めてきましたが、原油の自噴が散発している地区があることから、引き続き適切な対応が求められています。



朝日沈砂池

- 下水道や合併処理浄化槽の整備により、衛生的で快適な市民生活を確保してきました。今後、総合的な汚水処理の方針により、公共下水道施設の新規整備が令和7年度頃までで終了します。下水道接続率も約9割となっていますが、更に下水道への接続に理解が得られるよう、広報に努める必要があります。

## 目指す区の姿

## I 環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち

## (2) 人と自然が調和した美しい景観の保全



## まちづくりの方針

- ◆区民との協働により、里山の環境保全や美しい「里山」の景観の保全・再生を図ります。(再掲)
- ◆秋葉公園再整備基本構想に基づき、秋葉公園のリニューアルを行い、公園の活性化や公園利用者の利便性の向上を図ります。(再掲)



秋葉湖



秋葉公園キャンプ場

- ◆信濃川親水緑地公園や阿賀野川水辺プラザなど水辺空間の保全と利用促進を図ります。

- ◆区民との協働により、新津川、能代川および小阿賀野川の遊歩道の利用環境を整備し、利用者の増加と健康づくりを推進します。



新津川遊歩道

- ◆快適な生活環境を確保するため、ぼい捨て等及び路上喫煙の防止に関する条例の推進と、ぼい捨てをはじめとする不法投棄防止の啓発に努めます。
- ◆さらなるごみの減量に向け、資源物などの分別徹底と、廃棄物の発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)の3R(スリーアール)活動を推進します。
- ◆河川など公共用水域の水質を保全するため、自然に湧出する原油の流出防止に努めます。
- ◆水質保全を図る下水道への接続を促進するため、助成金制度等の広報に努めます。

## 目指す区の姿

### I 環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち

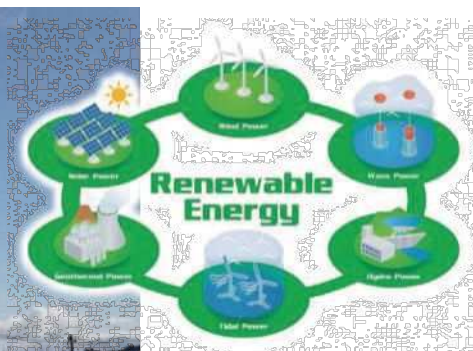
#### (3) 脱炭素社会の構築

##### 現状と課題

- 秋葉区の豊かな自然環境を良好に維持し、次世代に引き継ぐ責務があることから、再生可能エネルギーの導入や環境学習の実施など、脱炭素型社会の実現に向けた取組を進めてきました。「脱炭素型社会」を構築するには、環境に配慮したライフスタイルへの転換を図るとともに、再生可能エネルギー導入の加速化や脱炭素型社会に向けた意識の醸成が必要です。



秋葉区役所庁舎



#### まちづくりの方針

- ◆市民と協働した取り組みにより、環境に配慮したライフスタイルへの転換を目指します。
- ◆自然にやさしい太陽光発電など再生可能エネルギーの導入促進や電気自動車の活用、秋葉区が保有する資源の活用などにより、脱炭素型・循環型・自然共生型社会の実現に向け、秋葉区が率先して行動するまちを目指します。
- ◆脱炭素型社会の実現に必要な人づくりを行うため、学校などにおける環境教育・環境学習の推進を図ります。
- ◆再生可能エネルギーを活用し、自立分散型の電源として、避難所の非常電源の確保など災害対応力の向上を図ります。
- ◆脱炭素社会構築の取組と秋葉区の社会的課題を解決する取組を結びつけ、新たな産業や付加価値を生み出し、まちの活力につなげます。さらに、そのプロセスの中に、地域内で資金を循環させ地域の活力向上を目指します。





目指す区の姿

II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

(1) 産学官、地域が連携したまちなか活性化

現状と課題

●新津駅東口の「新潟薬科大学新津駅前キャンパス」が設置され、学生がまちなかで活動する取り組みが本格化しました。また、令和5年度に医療技術学部と看護学部が新設されることから、さらなる活気が期待されます。今後はこれまでに培った産学官の連携を基に、まちなか活性化に資する新たな取組も検討していく必要があります。



新潟薬科大学新津駅前キャンパス



まちづくりの方針

- ◆まちなかキャンパスの機能を活かし、大学、商店街、地域が連携した、活気に満ち溢れたまちづくりを推進します。
- ◆まちなかの賑わいを創出するためイベントの開催を通じて、新潟薬科大学学生など、若者との協働を推進します。
- ◆学生が区内で活動する機会として、今後も新潟薬科大学のカリキュラムである「キャリア形成実践演習」を支援、協力するため、商工会議所、商店街などの団体と連携していきます。



まちなかイベントへの大学生参加



大学生による体験講座



大学生参加の新津川除草クリーン作戦

## 目指す区の姿

### II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

#### (2) 安心・安全なまちづくり

##### 現状と課題

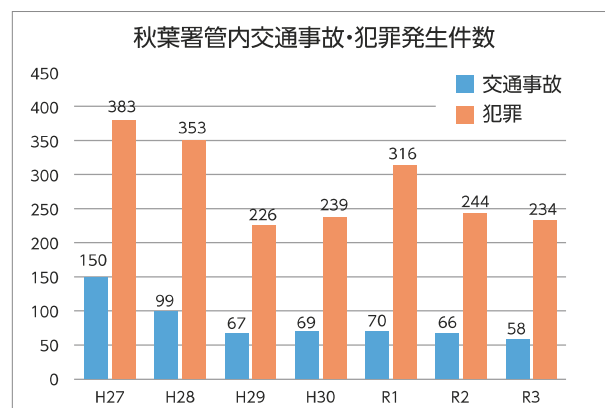
- 自主防災組織の結成促進に努めましたが、未結成地域の解消には至っていません。また、より一層の地域防災力の向上のため、その組織力の強化が求められています。
- 災害時に支援が必要な障がい者や高齢者が登録されている「避難行動要支援者名簿」を、支援協力が可能な自主防災組織などに配布しています。しかし、名簿未配布地域があることから、その解消に向けて、引き続き連携・協力を進める必要があります。
- 「総合ハザードマップ」を配布するなど、区民への防災情報の周知を行いました。また、緊急時の情報伝達手段の多様化を図り、迅速かつ正確な情報伝達の実現に努めています。
- 地域の実情に合わせた浸水対策施設の整備や、浸水脆弱地域における応急対策などによる浸水軽減に努めながら、自助・共助を含む総合的な浸水対策を進めてきました。集中豪雨の多発や都市化の進展に伴う内水氾濫の被害が増大する中、効率的な整備を推進するため、地区の状況を踏まえた計画的な施設整備を進めるとともに、自助・共助の強化を図る必要があります。
- 子ども見守り隊をはじめとしたボランティア活動により、「地域の子どもは地域で守る」という意識が高まってきています。今後は、地域での見守りに加え、子ども自らの判断で危険から回避できる能力を身に付ける学習の場などが必要とされています。



自主防災組織訓練



- 高齢者を標的にした「特殊詐欺」などの被害防止のため、警察と連携し防犯意識の啓発に努めてきましたが、被害の発生が後を絶たないため、さらなる高齢者への防犯知識普及が必要です。
- 幼児・児童・高齢者を対象に交通安全教室を開催していますが、特に高齢者の関係する交通事故の割合が増加していることから、高齢者を対象とした交通安全教育の推進が急務となっています。
- 指定避難所の耐震化はすべて完了し、避難所の備蓄物資も順次整備して、避難所の環境整備を図ってきました。今後は、避難所の運営を円滑に実施するため、地域と協力した運営体制の強化が必要となっています。
- 洪水時の対策として堤防高の確保ともぐり橋の解消を進めるため、国と連携し信濃川の小須戸橋架替え事業に着手しました。
- 排水不良個所の整備を進めた結果、市街地周辺地域にも浸水被害の軽減が図られましたが、今後も、計画的な維持管理を実施する必要があります。



目指す区の姿

Ⅱ やさしさがあふれる楽しく元気なまち

(2) 安心・安全なまちづくり



まちづくりの方針

◆自主防災組織未結成地域の解消を図り、自主防災組織の組織力強化を進めます。

◆「避難行動要支援者名簿」の未配布地域の解消に努め、「地域の助け合い」による、支援の推進に努めます。

◆多様な手段による迅速な情報伝達に努め、誰もが必要な情報を得ることができるとともに、区民自らによる積極的な情報収集の必要性を啓発し、防災知識の普及に努めます。



防災行政無線

◆避難所運営を円滑に実施するため、地域と協力した運営体制の構築を図ります。

◆子どもの安全確保に加えて、地域住民の避難所として学校施設の環境整備を図ります。



自主防災組織訓練

◆再生可能エネルギーを活用し、自立分散型の電源として、避難所の非常電源の確保など災害対応力の向上を図ります。(再掲)

◆浸水被害の軽減に向け、排水施設の維持補修を計画的に進め、ハード・ソフト一体となった総合的な浸水対策を推進します。

◆安全な通行確保のため、道路の維持補修を計画的に進めます。

◆持続可能な下水道サービスを提供するため、下水道施設の計画的な改築・更新による機能確保と、併せて大規模地震が発生した際、区民生活に及ぼす影響を最小限に止めるため、下水道施設の耐震化を推進します。

◆地域住民や保護者、警察などと連携した「子ども見守り活動」を推進するとともに、子どもが自らの判断で危険を回避できる知識や技術の習得を図ります。

◆子どもたちの通学路における交通安全の確保を図るため、警察などと連携した通学路の合同点検を定期的に行うとともに、必要な対策を実施します。

◆「特殊詐欺」などの被害から高齢者を守るため、警察と連携し、防犯意識の啓発と知識の普及に努めます。

◆あらゆる世代に対し、交通安全意識の普及に努めるとともに、加齢に応じた望ましい運転の在り方など交通安全教育の推進や先進安全技術等の活用の啓発に努めます。



サポカー体験

◆大型獣などが頻繁に出没する地域特性を踏まえ、人身被害を未然に防ぐ対応策などについて、啓発に努めます。



## 目指す区の姿

### II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

#### (3) 人がつながりともに支えあうやさしいまち

##### 現状と課題

- 核家族化や共働き家庭の増加、近所付き合いの希薄化などが進む中、不安感や負担感を抱きながら子育てをしている親が増え、育児不安や子ども虐待の相談などが増加しています。そのため、早い段階から妊娠・出産・育児等の相談を身近で安心して出来る環境づくりに向けた取り組みが必要です。



子育てサロン  
小さな森の広場

子育て支援センター新津育ちの森

- 秋葉区は働き盛り世代の特定健診受診率が低い傾向にあるため、受診率を向上させ、若いころから持続可能な体づくりを行う必要があります。



フレイル予防教室(口腔ケア)

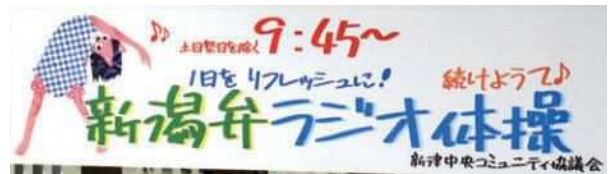
- 身体・知的・精神などの障がい種別を問わない総合的・複合的な相談への需要が高まっています。また、障がい者虐待や病院・施設から地域への移行、就労支援など、多様化する障がい者の福祉ニーズに対応できるよう関係機関と連携し、相談支援体制を強化する必要があります。

- 現在、秋葉区は約3人に1人が65歳以上で、市内でも高い高齢化率となっており、令和27年(2045年)には、約2.5人に1人が65歳以上となる推計が出ています。平均寿命を延伸し、いかに健康で暮らしていけるかが重要となっている中、地域全体で高齢者の在宅生活を支える生活支援サービスの重層的な提供が求められています。

- 経済的に困窮し、生活に不安を抱える人の相談が増えています。また、DV(ドメスティック・バイオレンス)などの女性に関する相談が増加する中、相談しやすい環境づくりがさらに重要となっています。

- 人口減少、少子・超高齢社会の中で、人々の価値観の変化や人間関係の多様化により、求められる福祉サービスも多岐にわたり、複雑化・複合化しています。

- 誰もが安心して健康に暮らせる地域づくりのためには、行政だけでなく、地域コミュニティ協議会や自治会、民生委員児童委員などのほか、区社会福祉協議会、地域包括支援センター、子育て支援センター、障がい者施設など、だれもが地域の一員として互いに連携し、協力することが必要です。



ラジオ体操

目指す区の姿

II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

(3) 人がつながりともに支えあうやさしいまち



まちづくりの方針

◆地域で安心して子育てができるよう、ライフステージに応じた切れ目のない支援を行います。環境づくりと支援体制の一層の拡充・強化を図ります。



妊娠・子育てほっとステーション

◆経済的に困窮し、生活に不安を抱える人やDV（ドメスティック・バイオレンス）被害者の相談、女性に関する相談など、様々な困りごとについて、相談窓口を周知し、相談しやすい環境づくりに努めます。

◆複雑化・複合化する地域課題と支援ニーズに対応するため、様々な機関と協働し包括的に支援する重層的支援体制を構築します。

◆地域住民が安心して快適な生活を送ることができるよう、地域コミュニティ協議会や自治会、民生委員児童委員など、人を支える組織と連携・協働し、年齢や性別、障がいのある人もない人も、誰もが思いやりを持ち、互いの人権を尊重しながら安心して暮らせる地域づくりを推進します。

◆子どもの誰もが、人格と人権を持った一人の人間として尊重されるよう、温もりある支援を行います。

◆子どもから高齢者までの全世代を対象に、地域や関係機関と協働しながら食事や運動などをテーマとした健康づくりに取り組むなど、いきいきと暮らすためのからだづくりを推進します。

◆関係機関と協力しながら障がい者が地域で安心して暮らせるための環境づくりや相談支援体制の強化、就労支援の充実を図ります。

◆高齢者があらゆる世代の人たちと一緒に楽しく集い、仲間づくりをできる場が確保されるよう、人が集い交流し合う拠点づくりを支援し、住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域全体で支え合うネットワークづくりを進めます。

◆学校開放などにより地域活動の場としての活用を進めます。



食生活改善推進委員（ヘルスメイト）



むすびあい手帳



まちの茶の間 だんだん・嶋岡

## 目指す区の姿

## II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

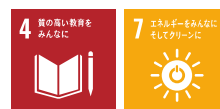
## (4) 秋葉区の個性を活かして次世代を育むまち

## 現状と課題

- 老朽化した遊歩道の再整備を実施したほか、石油の里公園内に炭焼き・木工体験施設を整備しました。今後も、約23kmの遊歩道の適切な維持管理のために、里山団体の活動の支援を検討する必要があります。
- 地域と学校パートナーシップ事業では、地域の大人との交流により、子どもたちが認めてもらえる機会の増加がみられ、社会性の育成が図られました。学校では、この事業の推進を図っていますが、地域ボランティア等、地域人材の確保が課題となっています。
- 区内にある地域資源や公共施設の積極的な利用を進め、子どもたちに身近な地域であるという認識を一層深めてもらうため、地域コミュニティ協議会などとの連携により、ボランティア活動や地域住民との世代間交流を引き続き実施していく必要があります。



菩提寺山遊歩道入口



## まちづくりの方針

- ◆脱炭素型社会の実現に必要な人づくりを行うため、学校などにおける環境教育・環境学習の推進を図ります。(再掲)
- ◆秋葉区固有の宝物を子どもたちの学びと育ちに活用し、ふるさとへの愛着と誇りを持ってもらうことで、将来のまちづくりを担う人材を育成します。
- ◆家庭教育の自主性を尊重し、子育て中の親などへ学習機会及び情報の提供を行うことで家庭教育を支援するとともに、参加者同士の仲間づくりを進めます。
- ◆青少年の健全育成を図るため、青少年の体験活動や異年齢交流などを推進します。
- ◆大学・高校や小中学校などすべての教育機関が地域と一体となって子どもたちの成長を支えるとともに、地域課題を共有し、協働により課題解決に向けた取組を進めます。
- ◆団体・施設等のネットワークとその連携により、にいつ丘陵の特色を活かした活動・イベントや、より多彩で魅力的な体験プログラムの展開を図って行きます。(再掲)
- ◆ふるさと愛を育むため、地域の自然や施設などを訪ねる校外学習活動を積極的に推進します。
- ◆地域の連携により、子どもたちのコミュニケーション能力や社会性を育みます。



オイルサンド層



## 目指す区の姿

## II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

## (5) 交通網の整備と持続可能な地域公共交通の確保

## 現状と課題

- キャッシュレス決済の導入など、区バス利用者の利便性も向上したものの、路線バス・区バスが運行されていない地域など移動手段の確保が必要な地域があります。実態調査などニーズ把握を行い、JRや既存路線バスなどを考慮しながら、区バスの運行ダイヤやルートの適正化を検討していく必要があります。
- 冬期間の交通確保に向け、地域要望などを考慮し、除雪体制を拡充してきました。また、令和2年度の異常降雪による交通障害を検証し、大雪災害時の除雪体制の見直しを行いました。引き続き体制の維持を図りつつ、自助・共助・公助のもと効率的かつ持続的な体制の充実が必要です。



区バス



国道460号線除雪作業

- 自治協議会において地域と協働で移動手段の確保に向けた検討を行いました。さらに移動手段の確保が必要な地域でのニーズ把握や持続可能な公共交通網の整備に向けた調査・検討していく必要があります。
- 区内の地域間の連携や移動時間短縮を図るため、国道403号秋葉消防署交差点付近や、地域の幹線道路として荻川新津線、結第6号市之瀬線、北浦線、鎌倉横川1号線の整備を行いました。
- 新津西スマートICが完成し、新潟市中心部や北陸道とのアクセス・利便性が向上しました。新潟中央JCT方面への出入口のみのハーフICのため、磐越道の福島方面へのアクセス向上が望まれています。
- 国道403号小須戸田上バイパスの延伸、主要地方道白根安田線・大安寺第5号大関線の歩道整備、主要地方道新潟小須戸三条線の車道拡幅整備を行い、交通環境の改善、歩行者の安全確保、運転の安全性確保を図りました。引き続き、国道403号の4車線化、国道460号の小合バイパスの整備について、検討が必要です。
- 地区懇談会や自治会要望の多い道路改良、側溝整備、舗装新設は、計画的に実施する必要があります。
- 矢代田駅周辺整備関連事業と合わせ小須戸サイクリングロードを整備しました。旧小須戸町の旧新津市境から田上町境界近くまでのJR信越本線沿いに、自転車・歩行者が快適に利用できる道路空間を確保できました。



小須戸サイクリングロード

## 目指す区の姿

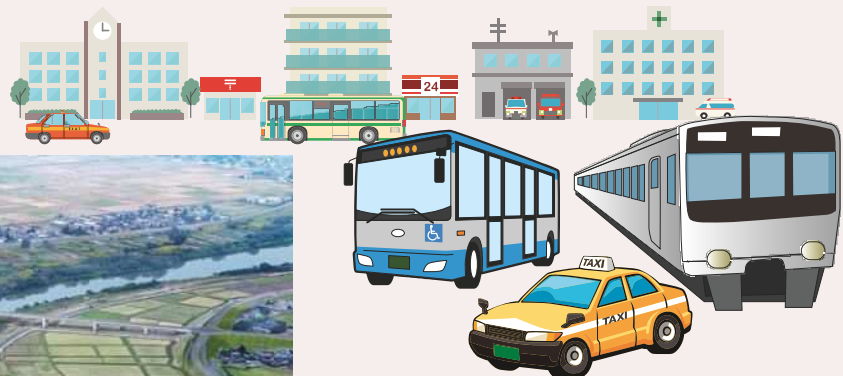
## II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

## (5) 交通網の整備と持続可能な地域公共交通の確保



## まちづくりの方針

- ◆区バスの利便性の向上と利用促進を図り、公共交通機関のPRを行います。
- ◆持続可能な公共交通を目指し、交通事業者、関係団体や地域と連携を深めながら、新規利用者の拡大を図るとともに地域の実情に応じた日常生活に必要な移動手段を検討します。
- ◆路線バス再編を踏まえ、主要な区中心部や公共交通結節点につながる幹線路線を中心に、交通事業者や地域と共に、便利なバス路線網の構築を検討します。
- ◆現在施工中の新潟中央環状線や小須戸橋の架け替え等の進捗状況を踏まえながら、国道403号の4車線化、国道460号の小合バイパスの整備について、検討を進めます。
- ◆関係機関と連携を図りながら、通学路などの交通安全施設の整備を進めます。
- ◆磐越道の福島方面へのアクセス性向上のため、高速道路や国道などの既存のインフラ施設の利活用を検討します。
- ◆冬期間の交通確保のため、除雪体制の拡充を図ります。
- ◆地元要望に対応した道路改良、側溝新設、舗装補修などを、緊急性の高い所から計画的に実施します。



新小須戸橋 (イメージ)

目指す区の姿

II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

(6) 協働によるまちづくり

現状と課題

●地域課題解決に向け、区自治協議会委員が自ら、提案事業を実施してきました。今後自治を深化させるためには、さらに自治協議会の認知度を高め、活動を活性化させる必要があります。



403号フラワーロード植栽

●地域力と市民力を活かす自立したまちを目指し、地域コミュニティ協議会と協働で地域課題の解決を探る地区懇談会を開催し、区民の声を区政に反映させました。地域コミュニティ協議会や自治会・町内会の自主的活動を支援し、地域住民主体による地域づくりの推進が図られました。今後は、地域コミュニティ協議会などとの連携をさらに深めるとともに、福祉や学校関係者なども含め、地域づくりに関わる関係者との協働によるまちづくりを推進する必要があります。

●コミュニティセンターなどの施設を地域活動の拠点として機能充実を図る必要があります。

●地域と学校パートナーシップ事業では、地域教育コーディネーターを各学校に配置し、学校の教育活動が充実したほか、地域住民にとっても生涯学習の発揮の場や仲間づくり、地域づくりにつながりました。学校運営協議会と連携し、地域総がかりの教育について更なる啓発を行い、地域の子どもは地域で育てる気運の醸成を図っていく必要があります。



自治協議会ワークショップ



まちづくりの方針

◆自治の深化に向け、自治協議会の認知度をさらに高めるとともに、更なる協働の推進を図り、地域課題の解決に取り組みます。



自治協議会提案事業「ひなおぼめぐり」

◆地域コミュニティ協議会やNPO、ボランティア団体などとの連携を図り、協働のまちづくりを推進します。

◆市民団体が自主的・自発的に取り組む公益活動を支援します。

◆学校と社会教育施設、地域との様々な活動を結ぶネットワークづくりや協働事業などを拡充し、地域総がかりの教育をさらに推進します。

◆区教育ミーティングを開催し、地域の声を教育行政に反映させます。

◆地域主体のコミュニティづくりと地域を支える人材・団体の育成に努め、学・社・民の融合により地域全体による子どもの学びにつなげます。



目指す区の姿

Ⅲ 歴史と個性を活かすまち

(1) 歴史ある文化や宝物の積極的な情報発信

現状と課題

- 国の史跡に指定された、石油の里公園「新津油田金津鉱場跡」の遺構の保全・整備に努めてきました。石油の世界館周辺は石油採掘に使われた産業遺産が数多く残っているため、区民と協働しながら、秋葉区の石油文化を新潟市の地域資源の一つとして、さらに普及啓発していく必要があります。
- 区内に点在する文化遺産の有効活用に努め、区外に積極的に情報発信していくことが求められています。
- 令和元年に開所した新津駅前「あ！キハ観光案内所」を観光の基軸にすえ、鉄道文化のさらなる深化を進めてきました。今後も、鉄道の関連団体などとの連携をさらに強固にするとともに、魅力ある情報発信を継続していく必要があります。



SLばんえつ物語

- 江戸時代から花き・花木の栽培が盛んに行われ、鉢花の一大産地となっており、日本で初めて商業用の球根栽培を始めた歴史があります。近年は、消費減少のなかで、生き残っていくために、売れる商品、売れる仕組みづくりが求められています。



まちづくりの方針

- ◆区だより、ホームページ、SNSやコミュニティFMなどを活用し、地域固有の優れた資源を積極的に活用するとともに情報発信します。
- ◆秋葉区内の個性豊かな文化・宝物の利活用や情報発信について、区内の施設が連携し、一体となって取り組みます。
- ◆国の史跡がある石油の里公園を近代エネルギー産業の発祥の地として、さらに将来の脱炭素社会について考えるための場ともなるように、保全と整備を進めて情報発信します。
- ◆鉄道文化の継承と県内外へ情報発信するため、JR新津駅、新津鉄道資料館、にいつ鉄道商店街、新津観光協会などと引き続き連携していきます。
- ◆今後も新品種の作出が重要なため県園芸研究センターと連携し、育種状況や今後の方向性など協議を進めていきます。



新津油田金津鉱場跡 C3号井



満願寺稲架木並木

目指す区の姿

Ⅲ 歴史と個性を活かすまち

(2) 個性を活かした交流のあるまちづくり

現状と課題

- 新津観光協会を通じて、地域の伝統芸能の活動を支援するなど、イベントへの地域団体の参画機会を創出してきました。
- 弥生時代の環濠集落や県内最大の円墳が復元整備されている国史跡「古津八幡山遺跡」と「新津油田金津鋤場跡」について、情報発信を推進し、来訪者の増加を目指す必要があります。
- 史跡古津八幡山弥生の丘展示館、県立植物園などの関係機関と連携しながら、花と緑のふるさと公園において「にいつ花ふるフェスタ」を実施してきました。立地的に集約していることを活かした相乗効果の高い一体的な広報を行っていくことが課題となっています。
- 観光ボランティアガイドによる、様々な文化・観光施設を結び付けた案内を実施しています。引き続き、観光ボランティアガイドの養成を行う必要があります。
- 文化遺産や、個々の学びを発信し、まちづくりにつなげる方策を検討する必要があります。



新津夏まつり



小須戸燈籠押合いまつり



まちづくりの方針

- ◆集客力のある地域のまつりや伝統芸能などを観光資源として活用します。
- ◆花産業、鉄道、石油産業遺産、町屋といった秋葉区の個性を活かし、さらに区内の観光関連施設などと連携し、魅力ある観光資源としてさらに磨き上げます。
- ◆史跡を適切に保全し、次世代へと確実に伝達していくために保存活用計画に則して史跡の保存活用を行っていきます。また、未指定地の追加指定を目指し、史跡周辺の確認調査を継続して実施します。
- ◆各地に残された有形・無形の文化遺産を保存・継承し、それらを地域づくりに活用します。



ポンピングパワー1号機



新幹線とC57

目指す区の姿

Ⅲ 歴史と個性を活かすまち

(3) 文化の継承と創造による文化活動の振興

現状と課題

- 様々な文化・芸術事業を通じて、文化会館が地域のまちづくり・ひとづくりの中心的役割を担えるよう運営していくとともに、更なる文化活動の活性化と文化を創造する人財の育成を進める必要があります。
- 秋葉区内の芸能部門の成果発表の機会を提供することで、創作意欲の向上と地域文化活動の推進を図ってきました。
- 秋葉区内の美術愛好家の作品発表の場を提供することで、創作意欲の向上と地域文化活動の推進を図ってきました。
- 区民と協働しながら、地域固有の豊かな自然環境や文化資源をテーマに、学習活動への取り組みを進める必要があります。



(C)yoshitaka

あるていすと 劇場企画『MOMO』@秋葉区文化会館



まちづくりの方針

- ◆ 文化会館を核とした文化活動の振興を図り、新たな文化の創造を進めます。
- ◆ 各地に残された有形・無形の文化遺産を保存・継承し、それらを地域づくりに活用します。(再掲)
- ◆ 地域の芸術、地域資源を活かした学習活動を推進します。

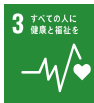
(4) 健康で豊かなスポーツ活動の振興

現状と課題

- 区民の生涯スポーツ、競技スポーツの拠点である総合体育館を、競技力の向上、スポーツ人口の増加、健康づくりなどの中心的役割を担えるよう運営していく必要があります。



フットサル大会



まちづくりの方針

- ◆ 総合体育館を核としたスポーツ活動の振興を図ります。
- ◆ 多様なスポーツ需要に応えられるようにするため、区内スポーツ施設の機能点検を定期的実施し、計画的な整備を検討します。
- ◆ 各種スポーツ大会を各競技団体と連携して開催するとともに、地域に根差した生涯スポーツの振興を図り、事業の普及のため、各種の教室・講習会などの充実を図ります。
- ◆ ジュニア育成と競技力の向上を図り、各種大会の開催と一環指導の確立、競技間の相互交流を進めます。
- ◆ スポーツや健康づくりの相談体制を整備するとともに、運動と健康がつながるまちづくりを推進します。



## 目指す区の姿

## IV 可能性を生み出し・育て・活かすまち

## (1) 産業の振興

## 現状と課題

●新津商工会議所、小須戸商工会への支援や空き店舗対策、秋葉区独自の地域資源を活かしたまちづくりを協働で支援してきました。今後も引き続き、新津商工会議所、小須戸商工会や農商工関連団体などと連携し、時代のニーズに応じた支援や活性化対策を講じていく必要があります。



アザレア生産ハウス

●秋葉区は、米をはじめ野菜、果樹、花、畜産にも取り組んでいます。米の収入に依存する割合が非常に高く、需要変動により所得が不安定になりやすい状況です。また、高収益作物の栽培には、労働力の確保が必要です。

●県園芸研究センターと花き出荷組合内のアザレア部会と連携し、育種状況や今後の方向性など現物の評価を継続し、意見交換を行っています。今後も新品種の作出が重要なことから、県園芸研究センターと農業者との関係性維持が重要であり、品種の維持のため生産販売計画を策定し販売促進を図っています。



もち麦収穫



## まちづくりの方針

- ◆商工会議所・商工会などと連携し、地域経済の活性化を図ります。
- ◆今後も、農業経営の改善に意欲的な農業者を、国・県・市の各種補助事業による支援を行い、所得確保に努めます。
- ◆県園芸研究センターと連携して品種改良などの研究に努めます。
- ◆農業関係機関と連携して品種改良などの研究に努めます。
- ◆区の産業の活性化と雇用の場の創出に努めるとともに、ハローワーク新津と連携した取り組みを進めます。

- ◆脱炭素社会構築の取り組みと秋葉区の社会的課題を解決する取り組みを結びつけ、デジタル技術などの先端技術の活用を推進することで、新たな産業や付加価値を生み出し、まちの活力につなげます。さらに、そのプロセスの中に、地域内で資金を循環させ地域の活力向上を目指します。(再掲)
- ◆秋葉区ならではの豊富な食材、優れた人材、脱炭素技術、交通インフラを最大限に活用し、多種多様な企業や人材が協業・共創するための環境を整え、新規企業の誘致を推進します。

## 目指す区の姿

### IV 可能性を生み出し・育て・活かすまち

#### (2) 全国屈指の園芸産地の魅力発信と環境にやさしい安心・安全な農作物の供給

##### 現状と課題

- 首都圏や遠方市場で、花き・花木の産地PRを行っています。PR活動による効果が見えづらい一方で、市場関係者からのニーズを捉える絶好の機会となっています。今後、高齢化が加速する中で、担い手の確保は非常に大きな課題です。加えて後継者がいない農業者も増加しており、栽培技術の円滑な継承が進まないことが考えられます。
- 化学肥料や化学合成農薬を5割以上低減する取組と合わせて行う、地球温暖化防止や生物多様性保全等に効果の高い営農活動を支援しています。今後は、農業者の離農等により環境保全型農業の面積が減少していくことが考えられます。
- 圃場整備事業をはじめ、農道整備や排水路整備について、関係機関と連携して年次的に取り組んできました。



大麦 (秋葉の里 白雪もち麦)



ボケ



### まちづくりの方針

- ◆全国屈指の花き・花木のさらなる販路拡大を農業者・農業者団体と一体となって取組を推進し、新規就農者へ技術および知識の習得や意欲ある担い手が、安定して営農継続できる環境整備を行うなど、多様な担い手の確保・育成に努めます。
- ◆農産物のブランド化、環境保全型農業の推進や機械化体系が確立した高収益作物の導入支援に取り組めます。また、農産物直売所の取組を支援し、秋葉区産農産物を選んでもらえる消費者(応援団)の増加に努めます。
- ◆圃場整備事業を行い、農業生産基盤を強化します。
- ◆みどりの食料システム戦略の方向性を踏まえ、脱炭素化を進めるとともに、環境負荷を低減した農業生産を推進し、持続可能な農業の実現に努めます。
- ◆環境負荷の少ない農業の実現に向け、化学合成肥料・化学合成農薬の低減とともに、堆肥を利用した土づくりのほか、水田での中干しの期間延長や秋耕などを推進し、土壌への炭素貯蔵や地球温暖化防止の取組に努めます。

## 目指す区の姿

## IV 可能性を生み出し・育て・活かすまち

## (3) 新潟薬科大学、商店街などとの連携

## 現状と課題

- 新潟薬科大学、新潟商工会議所と連携して「まちなか活性化実行委員会」を組織し、「まちなか」「健康」「里山」の各部会の取組により産学官連携によるまちなか活性化、健康づくり、里山の魅力発信を有機的に結び課題解決に向けた取組を行ってきました。引き続き連携を強固なものにして、取組のさらなる深化を図る必要があります。

## まちづくりの方針

- ◆新潟薬科大学、商店街、地域との連携をさらに進め、農商工連携と産学官連携による企業の誘致を支援します。
- ◆秋葉区の優位性を最大限に活かし、地元の大学等と更なる連携を図りながら、次世代へ向けた新しい技術や産業を生み出し、新たな可能性が育つまちを目指します。

## (4) 関係人口の拡大と移住促進

## 現状と課題

- 新型コロナウイルス感染症の流行により、生活様式や社会活動が変化しデジタル化が急激に進み、テレワークやオンライン会合の増加により一部職種では、地方でも十分に首都圏と同様に働けるようになり、地方移住への関心の高まりにつながっています。
- 地方移住の関心が高まるなか関係人口の拡大を図るため、起業を希望する個人事業主や地方でのテレワークを希望する人が活動できる場所の確保が必要です。
- 様々な分野で急速にデジタル化が進む中で、地理的な制約、年齢、性別、障がいの有無等にかかわらず、誰もがデジタル化の恩恵を実感できるよう支援していく必要があります。
- 秋葉区への移住・定住に関心を持つ方が一元的に情報収集ができ、気軽に相談できるような体制づくりや、それをサポートする関係団体からなるネットワークの構築が必要となります。



## まちづくりの方針

- ◆民間団体等と協働して、空き家・空き部屋や空き店舗を活用して、コワーキングスペースやシェアオフィスを確保し、テレワークを進める起業や個人事業者を呼び込み、関係人口の増加へつなげ、個人事業者のネットワーク化を目指します。
- ◆移住を希望する方の窓口として、移住相談デスクの設置とコンシェルジュの配置を行うことで、積極的な情報発信ときめ細やかな移住相談など総合的なサポートを行います。
- ◆脱炭素社会構築の取組と秋葉区の社会的課題を解決する取組を結びつけ、デジタル技術の活用を推進することで、新たな産業や付加価値を生み出し、まちの活力につなげます。さらに、そのプロセスの中に、地域内で資金を循環させ地域の活力向上を目指します。(再掲)
- ◆秋葉区ならではの豊富な食材、優れた人材、脱炭素技術、交通インフラを最大限に活用し、多種多様な企業や人材が協業・共創するための環境を整え、新規企業の誘致を推進します。(再掲)

